

タイ 2026 年上半期 日系企業動向

①現地概況

タイの景気状況を測る重要な指標のひとつに、自動車の販売台数があります。2025 年に入り新車販売台数は前年同月比でプラス基調が定着し、4 月以降は毎月前年を上回る状態が続いています。2026 年に入ってからこの回復基調は続いており、1～5 月の販売台数は合計 28 万 8,202 台と、前年同期（25 万 2,615 台）比で 14.1%の増加となりました。ただし、これは 2025 年末から続く年末年始商戦や販促キャンペーンによる押し上げ効果も大きく、2023 年同期（34 万 1,691 台）の水準には及ばず、本格的な需要回復とは言えない状況です。

タイ国内新車販売台数

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
2024 年	54,814	52,843	56,099	46,738	49,871	47,622	46,394	45,190	39,048	37,691	42,309	54,016
2025 年	48,082	49,313	55,798	47,193	52,229	50,079	49,102	47,622	48,350	47,032	51,044	75,121
2026 年	73,936	48,242	59,865	48,394	57,765							

（タイ工業連盟（FTI）の発表を元に筆者作成）

一方、販売台数の緩やかな回復とは対照的に、生産・輸出は伸び悩んでいます。2026 年 1～5 月の生産台数は 58 万 7,759 台（前年同期比 1.4%減）、輸出台数は 33 万 9,618 台（同 8.5%減）といずれも前年を下回りました。タイ工業連盟（FTI）は、中東情勢の緊迫化とホルムズ海峡をめぐる物流の混乱により、中東向け輸出仕様のピックアップトラックの生産が落ち込んでいることを要因の一つに挙げています。

（1～5 月累計）	2025 年	2026 年	前年同期比
生産台数	595,935 台	587,759 台	▲1.4%
輸出台数	371,359 台	339,618 台	▲8.5%
販売台数	252,615 台	288,202 台	+14.1%

（タイ工業連盟（FTI）の発表を元に筆者作成）

また、中国系 EV メーカーの攻勢も依然として続いています。BYD や MG、GWM など複数の中国ブランドがタイ国内で工場を稼働させ、幅広い価格帯のモデルを投入した結果、長らく 9 割超のシェアを握ってきた日系メーカーは、特に BEV 分野でシェアを侵食されつつあります。こうした中、タイ政府は 2026 年から 2032 年までの 7 年間、ハイブリッド車（HV）・マイルドハイブリッド車（MHEV）を対象に物品税率を優遇措置で固定する新たな施策を承認しました。日系メーカーが強みを持つ HV 技術の後押しする内容で、マツダは同措置を受けてタイ工場へ 50 億バーツ（約 230 億円）を追加投資し、国

際市場向けマイルドハイブリッド車の生産を 2027 年に開始すると発表するなど、日系各社も HV・HEV 戦略でタイでの存在感維持を図っています。

②現地日系企業の動向

盤谷日本人商工会議所（JCC）が 6 月 30 日に発表した日系企業景気動向調査によると、2026 年上期（見通し）の業況感指数（DI）はマイナス 6 と、2025 年下期（実績）のゼロから 6 ポイント悪化しました。半導体関連の需要や設備投資は旺盛であるものの、中東情勢の悪化による原材料価格・輸送コストの高騰や輸出減少などがマイナス要因となっています。2026 年下期（見通し）は、データセンター関連の受注増加が見込まれる一方、国内景気の低迷や中東情勢に伴うコスト増加からマイナス 7 とさらに悪化する見通しです。※DI は前期に比べて業況が「上向く（上向いた）」との回答比率から「悪化する（悪化した）」との回答比率を引いた値。業況が改善した企業が多いとプラスになる。

業種別の DI をみると、製造業全体は 2025 年下期実績のプラス 3 から 2026 年上期見通しはマイナス 7 に転じ、下期見通しはマイナス 9 とさらなる悪化が見込まれています。個別には「繊維」がマイナス 50 前後、「小売」がマイナス 33～44 と大幅な低水準が続くほか、堅調だった「輸送用機械」も 25 年下期のプラス 16 から 26 年に入りマイナス 12 に転じました。一方、非製造業全体はマイナス 5 からマイナス 6、マイナス 4 と、製造業に比べ落ち込み幅は小さくなっています。

日系企業が抱える経営上の問題点（複数回答）としては、「原材料価格の上昇」が 65%で最多となり、「他社との競争激化」（58%）、「国内需要の低迷」（57%）が続きました。1 年前の調査で最多だった「他社との競争激化」に代わり、原材料コストの上昇が最大の懸念事項となった点が特徴です。また、AI の活用については「活用の必要性があり、これから取り組む予定」との回答が 32%と最多を占め、人材面では「マネージャー（管理職）」（48%）や「エンジニア（生産技術・設計等）」（45%）の確保難が課題として挙げられています。

（出典：盤谷日本人商工会議所（JCC）「2026 年上期日系企業景気動向調査（概要版）」）

③進出相談傾向

弊社への進出相談件数は、2026 年上半期も前年並みの水準で推移しました。内訳は引き続き非製造業（IT、飲食関連、商社、エンジニアリングサービス、駐在員事務所等）が中心で、前期と同様の傾向が続いています。一方でタイ現地法人の閉鎖に関する相談も増えており、長引く国内景気の低迷や競争激化、グローバル戦略の見直しに伴う拠点の集約など、事業再編を模索する企業の動きも顕著になっています。

大手日系企業の動向としては、自動車メーカー各社の攻勢が続いています。

・トヨタ…2025 年 11 月にバンコクで新型「ハイラックス」を世界初公開。ディーゼル、BEV、48V マイルドハイブリッド、FCEV と多様なパワートレインを揃える「マルチパスウェイ戦略」を掲げ、タイを皮切りにアジア各国へ順次展開。2026 年 1～3 月のタイ国内新車販売は前年同期比 7.8%増の 6 万 2,196 台（市場シェア 34.2%）と好調を維持。

・いすゞ…2025 年 4 月から BEV ピックアップトラック「D-MAX EV」の左ハンドルモデルの生産を開始し欧州へ出荷。年末からは右ハンドルモデルの生産も開始し、2026 年から英国での販売を予定するなど、タイを拠点とした輸出戦略を強化。

・マツダ…2026 年から 2032 年までの新税制優遇措置を受け、タイ工場に 50 億バーツを追加投資すると発表。国際市場向けマイルドハイブリッド車の生産を 2027 年に開始する計画。

・ホンダ…主力 SUV「CR-V」への e:HEV モデル追加など、タイでもハイブリッドラインアップの拡充を進めている。

④県内企業の皆様へ

タイ経済を支える自動車業界ですが、国内の新車販売は緩やかな回復基調にあるものの、生産・輸出は中東情勢や中国系メーカーとの競争激化により伸び悩んでおり、現地の日系企業も原材料コストの上昇や競争激化を経営上の最大の課題として挙げています。新規進出や取引拡大を検討する際は、こうしたコスト構造や競合状況を踏まえた戦略立案が重要になります。

一方、2 月の総選挙を経た政権基盤の安定や、米国との相互関税率 19%据え置きなど、通商面の不透明感は一定程度後退しています。もっとも、タイでは少額の小口貨物であっても関税の免除措置がなく、原則としてすべての輸入貨物が申告・課税対象となり、品目に応じて関税・VAT が課され、その負担は買手（現地消費者）側に生じる仕組みとなっています。このため越境 EC による直接販売は、購入者側の負担感から現実的なハードルが高いのが実情です。タイ向け輸出を軌道に乗せるには、現地の輸入・販売免許や通関手続きに精通した現地パートナー（輸入・販売代理店）の確保が事実上不可欠であり、信頼できるパートナー選びが事業成否を左右します。

当サポートデスクでは、現地進出や輸出に関する制度確認、現地パートナー（輸入・販売代理店）の探索など個別のご相談に対応しております。タイ市場への参入をご検討の際は、お気軽にお問い合わせください。

参考文献：

盤谷日本人商工会議所（JCC）JCC 2026 年上期 日系企業景気動向調査（概要）

https://www.jcc.or.th/assets/pdfs/download/193_2026%E5%B9%B4%E4%B8%8A%E6%9C%9FJCC%E6%99%AF%E6%B0%97%E5%8B%95%E5%90%91%E8%AA%BF%E6%9F%BB%20%E6%A6%82%E8%A6%81%E7%89%88.pdf

マークライNZ タイ自動車生産台数 2026 年

https://www.marklines.com/ja/statistics/flash_prod/automotive-production-in-thailand-by-month

AUTOCAR JAPAN 新型トヨタ・ハイラックス EV をタイで世界初披露

<https://www.autocar.jp/post/1191963>

ワイズデジタル タイ 1～3 月のトヨタ車販売、8%増の 6.2 万台

https://www.wisebk.com/asean_news/370677/

いすゞ自動車ニュースルーム いすゞ、BEV ピックアップトラック「D-MAX EV」をタイで生産開始

https://www.isuzu.co.jp/newsroom/details/20250429_1.html

TRADING ECONOMICS タイの年間 GDP 成長

<https://jp.tradingeconomics.com/thailand/full-year-gdp-growth>

免責事項：

本レポートに掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、岡山県は利用者が当ホームページの情報をを用いて行う一切の行為について、何らの責任を負うものではありません。本レポートに起因して利用者に生じた損害につき、岡山県としては責任を負いかねますので御了承ください。